

大谷 大学 編

「宗教教化学研究会紀要」について

小 松 邦 彰

昨年、大谷大学から創刊された「宗教教化学研究会紀要」は注目すべき幾つかの問題を投げかけている。同誌は

「大谷大学の建学の精神に立脚して、真宗と仏教学の本質を現代の場で把えるとともに、逆に真宗や仏教の立場から現代社会へアプローチする道を模索し探求しようとすることを目的」として、昭和四十一年四月より同大学に開講された「宗教教化学」の講義のレジメと講演の筆録を収めたものである。収録されているものは

宗教エリートの練成について 川島 武宣
 実践神学について 土居 真俊
 キリスト教神学に於る実践神学の課題 遠藤 彰

初期仏教における僧伽の精神 佐々木 教悟
 教団と教化 高木 宏夫
 の五論文と

仏教学的立場と現代文化の接合点 安藤 俊雄
 真宗教化学序説 広瀬 泉
 教 団 論 寺川 俊昭

宗教教育の諸問題(前期) 柴田 良稔
 宗教教育の諸問題(后期) 久木 幸男
 の五つの講義概要とである。

宗教教育の諸問題(前期) 柴田 良稔
 宗教教育の諸問題(后期) 久木 幸男
 の五つの講義概要とである。
 教化学という布教、伝道の学的研究について、既にキリスト教では実践神学、応用神学、宣教の神学などの名で呼

ばれる教義・教理の研究に対する実践的な学の性格づけが確立されているが、仏教においては従来の宗学や仏教学の研究領域では余り顧みられなかった未開の分野であったことは、「はしがき」に安藤俊雄字監が述べている通りである。本誌を一読して大谷大学で研究と講義に携っている諸先生の苦心と、教化学の性格と方法を求めて模索している様子が明かに伺われる。そして、十氏の論文いずれもがそれ／＼に問題提起をしているのであるが、とりわけて私の関心を惹いたのは川島論文である。これは一つには私が立正大学に関係していることから来るのかもしれないが、ここに提起されている問題は教団としても、教団人各々が真剣に取り組み考えなければならぬ事柄であると思われるので、以下にその要旨を紹介してみる。

川島氏がいうエリートは、一般的ないわゆる特権階級の意味ではなく、語本来の性質才能共に優れた社会的指導力のある人間の謂である。氏はいかなる社会でもリーダーとフォロワーとの社会的な分業という現象があり、政治、経済、学問それぞれで指導者として社会のために貢献できる能力や人格のある人々を見出し、教育し、練成し、社会におくり出していくような組織がなかったならば、その社会は没落していくだろうと指摘し、次いで現在の技術

者・ビジネスマン養成機関となっている日本の大学教育の在り方について欧米の大学におけるエリート養成の例と比較しながら疑問を出すのである。戦後の民主主義という変革が教育制度の改革にも影響を与え、自由放任の思潮が流行し、大学もその教育の日標を見失い親も学校も教育に無責任となり、現在その傾向は益々強まりつゝあると慨嘆しながら、大谷大学の在り方についての私見を披露している。すなわちカトリックやプロテスタントにおけるエリート養成に比して、一体日本の諸宗教教団ではエリート養成がなされているだろうかと率直な疑問が提出されている。いかなる人が教団の指導者となるか、エリートとなるのかは教団の運命を左右する大問題である。信者からの浄財で教団が維持され大学が維持されている大谷大学のなすべきことは、本当の一流の宗教的エリートを練成することであり、第一級の宗教的エリートを獲得出来るか出来ないかによって今後の教団の運命が決まる。宗教エリートを養成するための基本的な宗教教育、人格練成教育が必要であるが、それは大学では遅すぎるのであり、高等学校の段階でエリート教育を施し、本当に出来る者を大学に集め恵まれた条件で教育し、そこを出た者が真宗教団の指導的な仕事をするように養成した方がよい。明治以後の日本の発展

は政治エリート、経済エリート、学問エリートの練成にある程度成功したことによっているが、こうした意味でのエリート養成が遅れているのは宗教教団であり、ことにアメリカやイギリスに比すれば明かである。今や教団でそれをなすべきであり、極言すれば東本願寺で何もサラリーマンを養成する必要はないのであり、信者が信仰のために出した浄財は宗教エリートの練成に費やすべきで、それは教団の若返り、第二、第三の親鸞を出すためにも必要であると述べ、この宗教エリートの養成という課題は一大谷大学に限らず日本のすべての教団が今後考える必要があると結んである。

ここに川島氏が提示している問題は、大谷大学、真宗教団の場合に限らない。それはそのまま日蓮教団、宗立大学としての立正大学にとっても当てはまる問題であり、その存立理由が問われていると考えなければならぬ。

すなわち、日蓮聖人の生涯を貫く立正精神に学ぶことを建学の理想とし

- 一、真実を求め至誠を捧げよう
- 一、正義を尊び邪悪を除こう
- 一、和平を願ひ人類に尽そう

との三つの誓いに表わされた立正精神を体得し、時代に適

応した知識と技術を修め人類社会に寄与する人間をおくり出すことを目的とする立正大学にとって、その根本に關わる問題である。たしかに今日の立正大学は宗立大学とは名のみであるかもしれない。しかし、日蓮教団にとって宗教エリート練成の機關を求めるとき立正大学を措いて他にはない。然るに今日その役割を果たすべき立正大学宗学科の現況は、かゝるエリート教育を実施するのに幾つかの障害があることは否めない。戦後の大学の急激な膨張、マスプロ化の余波は仏教学部に及び、宗学科内にも宗門とは直接關わりのない学生や信仰を異にする多くの学生が入学を許され学んでいる事実である。このことは日蓮教団を背負って立ち、それを發展させて行く宗教エリート練成に支障を来させる一因となっている。また大学は学問研究の場であって信仰を説く場でないとし、使命感は自づと養成されるものであるとの考え方がある。

教団にとって教義、教理の研究という対内的靜的な面と布教、伝道という対外的動的な面とは盾の両面であつて一を欠いても全きものではない。布教、伝道がたゞ単に宗祖の教法を如何に語り伝えるかという技術的問題に止まるものでないことはいうまでもないであらう。それは宗学の在り方、宗学の性格を問う本質的問題である。本来、教団と宗

同志社大学 神学部 実践

神学カリキュラム

(「宗教教化学会紀要」より)

実践神学概論

キリスト教教育学

実習(教会へ派遣)

実習(牧師の指導)

説教

実習(教会へ派遣)

実習(牧師の指導)

実践神学特講

農村教化学

宗教心理学

教会音楽

キリスト教教育学特講

同大学院

キリスト教教化学

キリスト教教化学

実習

キリスト教教化学特講

宗教心理学特講

宗教社会学

三年度必修

四年度必修

三、四年度
選択

選択

大谷大学 宗教教化学

カリキュラム

教化学概論

教化概論

教団論

儀礼論

真宗倫理学

真宗(仏教学)教育学

心理学

教化法

儀式作法実習

実習

立正大学

僧階講座カリキュラム

(昭42年度入学者より適用)

宗学概論

法華教学史

祖書講義

祖伝

日蓮教学通論

宗史概説

宗教学等

布教研究及法式実習

仏教学概論

日本仏教史

学とは一体不二なるべきものが、従来やゝ遊離していた傾向にあったことは否めない。それが宗学の近代化に何等の枠をも嵌めなかったという点でプラスの面はあったとしても、教団について、また教化、伝道について教学的な意味づけがなされなかったというマイナス面は反省しなければならぬ。

今日、人々は何らかの意味で宗教を求めている。現代社会に宗教の果たすべき役割は大きい。一見隆盛に見える宗教界も現代人の心の空白を埋めるにどれだけの役割を果たしているかは疑問である。すでに葬式仏教の汚名を着せられてから久しい。

今後、日蓮教団が本当に生き残り、時代に歴史社会に積極的に参与し、日本の宗教界の中での指導的な教団であるためには、本当の宗教エリートを養成する必要がある。それは焦眉の急務である。そのためには教団と大学が一体となって事に望まねばならない。前頁の表の如く、同志社大学の牧師養成のカリキュラムと、大谷大学の宗教化学のカリキュラムと、立正大学における僧階講座のそれとを比較すれば、立遅れの事実を認めねばならない。ここに日蓮教団を担う宗教エリート練成のための試案を提示することは、その場でないと思われるから止めておくが、いずれに

しても今日の危機的状况を認識し、勇気を以て決断すべき時であると思う。